

平成 9 年・10 年 文部省指定交流教育地域推進事業(実験学校)

(研究主題)「開かれた学校と地域に生きる子どもたち」

平成の初め頃、養護学校はまだ地域とのつながりが希薄でした。本校の児童生徒が将来にわたって地域の中で豊かに暮らしていくことを目指すために「学校を開かれたもの」にする必要がありました。具体的には、学校の施設や人材も含めたその機能を地域に開くとともに、地域のもっている施設や人材、いわゆる地域の教育力を学校教育に生かすために、積極的にかかわっていく必要があると考えました。そこで、学校の施設を地域に開放し、本校の教員が講師となり、講座を行ったり、各公民館のサークルの情報や地域の施設や産業から本校の学びにふさわしい活動を調べたりしました。一方その頃、障害児の就学前の早期教育や養護学校と地域の学校との交流の重要性も徐々に明らかになってきていました。そこで研究主題を実現するために 4 つの内容(地域生活学習・ボランティア養成・幼児教育相談・学校間交流)を実践していきました。

この研究は時代に合わせ変化しましたが、今も本校の取り組みに脈々と受け継がれています。

地域生活学習は行事の精選から PTA 地区活動に引き継がれました。

ふれ愛ランドボランティア講座は毎年開催され、約500人が講座を受講し、現在35名の登録ボランティアが活躍しています。学生の時ボランティアを体験し、そのまま特別支援学校の教員になった方もいます。

幼児教育相談(まめの木)は、本校での相談にとどまらず、地域の学校での巡回相談や関係機関との連携を強め、地域の教育相談に貢献しています。

交流及び共同学習は本校の児童生徒の理解を促すために、本校職員が交流校に出向いて授業をしたり、交流校の教員との話し合いの中でより良い交流を目指して取り組んだりしています。

この研究を通じて、県下でもいち早く地域における特別支援教育の中心的役割を担ってきたことは、大きな財産として後世に語り継ぐ必要があります。

ここをクリック↓

http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagachuotoku/nc2/?action=common_download_main&upload_id=7221